

いしだたみ

No.146

2004年12月

『討論あり 対談あり 会場も
ひとつになって“今”を考える』を基調に

◆◆◆◆◆ 全3回「県立長崎図書館講座」終了! 延べ300人の参加 ◆◆◆◆◆

第1回は西平あかね先生と二羽史裕先生による「子どもと本の世界」、第2回は立岡誠先生と平田徳男先生による「大人・教師・子どもを語る」、第3回は大石一久先生と本馬貞夫先生による「長崎から新歴史情報を発信する」をテーマに討論、会場からも活発な意見があり、熱氣あふれる講座となりました。アンケートによると「講座内容に満足した」は74%でした。



第1回「子育てをテレビにまかせない」
「肉声の読み聞かせが大切」



会場からも活発な発言



第2回「次世代を担う子どもを育むために
大人たちが今考えるべきことは何か」



第3回「若者たちにもっと長崎の素晴らしさを」
「郷土の誇りが心を育てる」

もくじ

○「県立長崎図書館講座」を開催しましたP 1
○読書の秋に行われた県内の催しよりP 2
○被表彰団体紹介P 3
○郷土資料をさがすには（郷土資料検索の目安）P 4
○長崎県立長崎図書館協議会議事報告P 6
○障害者ふれあいブックメールサービスP 7
○市町村図書館紹介P 8



平成16年度長崎県図書館活動推進大会

■ 去る10月18日、長崎県立長崎図書館において、平成16年度長崎県図書館活動推進大会が開催されました。今回は、「地域に役立つ図書館づくり」をテーマとして開催し、図書館関係者や読書グループなど約170名もの参加がありました。

開会行事の後、読書会の活動をとおして、地域の図書館活動に寄与した団体等の表彰が行われました。

続いて、活動状況発表として崎戸町教育委員会 教育次長 嵐嶋 章氏による「朝読み・夕読み運動の取り組みについて」の発表が行われました。「町をあげて読書運動を展開する」という極めて重要なテーマに果敢に取り組み、その成果として児童・生徒のみならず保護者の読書量も増加しているという発表は、多くの市町村に具体的な示唆を与えるものでした。

次に、長崎県立点字図書館 点訳指導員 野口 豊氏による「視聴覚障害者サービスの現状と課題について」の発表が行われました。視聴覚障害者サービスの現状と情報化社会における情報提供サービスの難しさを発表していただき、公共図書館サービスに一石を投じたものとなりました。

最後に、元静岡県富士市立西図書館長の山本 宣親氏による「図書館づくりはまちづくり 一人に役立ち地域に貢献する図書館ー」と題した講演が行われ、「図書館からの情報発信がいかに大事か」、「あいさつとサービスの行き届いた図書館づくりを」といったお話をいただきました。

☆ 読書活動優良団体表彰 ☆

◎一般の部 西諫早読書会（諫早市）

◎子ども読書推進の部

おはなしもこもこ（五島市）

佐々町立図書館「図書ボランティアの会」（佐々町）

口之津町立図書館友の会（口之津町）

東彼「子どもの本の会」（川棚町）

おひさま文庫（大村市）

◎読書推進運動協議会全国表彰（伝達）ねむの木読書会（香焼町）



点字図書館の実状を訴える野口点訳指導員

読書活動優良団体表彰団体の横顔

西諫早読書会（諫早市） …… 每月1回の例会を始め、図書館・読書関連の行事等にも積極的に参加している。28年の長きにわたり、ますます盛んに読書会活動を続け、地域の読書推進活動に大きく貢献している。

おはなしもこもこ（五島市） …… 月2回市立図書館を拠点に「絵本の読み聞かせ」を実施している。最近では、紙芝居、人形劇、影絵などを会員で製作するなど、工夫を凝らした発表も採り入れている。さらに地元ケーブルテレビが企画制作中の「本を好きになろう」のシリーズでは絵本の朗読放送に協力するなど地域に密着した読書ボランティア活動を展開している。

佐々町立図書館「図書ボランティアの会」（佐々町） …… 町立図書館で年間100回を超える読み聞かせ活動によって、毎年2000人以上の子どもたちがたくさんの本に出会っている。町内2つの小学校へ定期的に出前読み聞かせを行っているほか、要望に応じて幼稚園・保育園等にも出かけている。

口之津町立図書館友の会（口之津町） …… 「出張おはなし会」や「朝の出張おはなし会」などの活動は年間400回を超える。また町立図書館での定例おはなし会や図書館行事と共に催すおはなし会など、図書館活動の推進にも寄与している。

東彼「子どもの本の会」（川棚町） …… 昭和50年県内で最も早く読み聞かせ活動に取り組み、特にこの2年は、保育所・幼稚園・小学校にもその活動の幅を拡充し、10ヶ月児を対象としたブックスタート事業（町自主事業）においても、発足当初から中心的な役割を担っている。

おひさま文庫（大村市） …… 上小路公民館で月3回、地域の子どもたちを対象として、本の楽しさだけでなく子育て支援の意味も含めて活動してきた。大村市内3文庫でおつきみ会をしたり、毎年8月には文庫まつりを開催。



長崎県地方史研究会 外海町大会開催

■ 10月30日、外海町立子ども博物館において郷土の歴史について学ぶ「長崎県地方史研究会外海町大会」が開催されました。

講演は、松川隆治氏による「外海町のカクレキリシタン」、佐世保史談会の山口日都志氏による「佐世保軍港の発展と風紀問題」と題して行われました。

史跡めぐりは、出津文化村周辺やドロ神父記念館で行われ、修復されたオルガンの演奏などもありました。また、キリシタン神社として知られる「枯松神社」も見学し、約170名の方が参加されました。

長崎県読書グループ連絡協議会・史跡見学

■ 11月5日、秋晴れのもと、県読書グループ連絡協議会の史跡見学を実施しました。今年は、「斎藤茂吉歌碑歌跡めぐり」と題して、長崎史談会長の宮川雅一氏、出島事始め塾副塾長の井手勝摩氏、長崎伝習所歴史再発見塾長小峰昭典氏を講師としてお招きし、斎藤茂吉寓居跡や聖福寺、興福寺などを訪れました。各読書グループから90名もの参加があり、茂吉の生きた時代を想いながら、長崎の街を歩きました。



○ 優良読書グループとして『ねむの木読書会』が全国表彰を受賞 ○

社団法人 読書運動推進協議会より第37回優良読書グループとして、全国表彰を受賞された『ねむの木読書会』(香焼町)を御紹介します。

「心の栄養」を蓄えて

私たちの町は海に開まれた小さな町で、町の中心部に何とも親しみを感じる佇まいの図書館があります。その図書館の利用者で読書好きな人たちが集まって、9年前にこの会が発足しました。

現在の会員は13名で、2ヶ月に1回の定例会では読書感想を述べあって交流をはかり、会員相互の意見を聞くことで一冊の本に対する理解がより深まっているようです。

定例会の他にも史跡散策や芸術鑑賞を楽しみ県立図書館の主催の行事ですとか、地域での催し物にも可能な限り参加しています。県内散策は勿論、他県の名所巡りや美術館へも出かけています。

県内外に新しい図書館が設立したと聞けば見学させていただき、好奇心旺盛な私たちは四方八方へ出向き、その折々に感動と元気をもらい人生の思い出のページに彩りをそえています。

平成11年には、香焼町の民話を掘り起こして、きちんとした形で後世に残そうという取り組み



で、町内のお年寄りにご協力をお願いして昔のお話や歌を教えていただき、またイラストにする切り絵は指導を受けながら会員で作成して、「香焼の昔ばなし」という本を1000部出版しました。

取り組みから出版まで数年かかりましたが、この本づくりは町内に住む大勢の方々に協力していただき、また会員相互の気持ちがひとつになって成し遂げられた事として深く心に残っています。

これからも読書会で色々なジャンルの本を読み「心の栄養」を蓄えて、和気あいあいとした雰囲気を大切にしながら私たちの活動を行っていきたいと思っています。

(代表 時津 裕美子)

郷土資料を探すには……

前回の本誌No 145（2004年7月）では、「『冬のソナタ』を探すには……」と題し、本館の一般資料の検索について紹介しました。今回は、本館4階郷土課資料の検索ツールについて紹介します。

郷土課資料は一部のレファレンス用図書を除いて、閉架になっています。もちろん、館内のコンピューター端末や本館ホームページ上の蔵書検索で該当資料を探す利用者も多いと思いますが、時には蔵書目録を使って、ゆっくりと郷土資料を探してみてはいかがでしょうか。

前回ご紹介したように、本館一般資料は、ほとんどの公立図書館と同様『日本十進分類法』で整理、分類、配架されています。しかし、郷土資料については以下に示すような本館独自の分類法で整理しています。

●郷土資料分類表●

1 1	宗教・哲学・教育
1 2	文学・語学
1 3	歴史・伝記・地誌・紀行
1 4	政治・法律・経済・財政・社会・風俗・統計
1 5	数学・理学（植物・動物・天文・地学・生物）・医学
1 6	工学・工芸・兵事
1 7	産業・商業・交通・通信
1 8	美術・家事・諸芸及び遊技・武術
1 9	事彙・叢書・隨筆・書目・書史・解題・雑書・新聞・雑誌
2	洋書
3	地図・絵図・写真
4	器具

この分類法は、大正12年に作成された、『郷土志料目録（大正12年12月現在）』においても基本的に同じものが採用されており、本館の伝統的な分類です。

●郷土資料目録●

ここで、本館が作成し、刊行した郷土資料目録を年代順にまとめてみましょう。

	目 錄 名	対 象 年 月	発行年
①	『郷土志料目録』	大正12年12月現在	大正12年
②	『郷土志料目録』	昭和11年3月末日現在	昭和11年
③	『郷土資料目録』	昭和28年3月末日現在	昭和29年
④	『郷土資料増加目録』	昭和28年4月～同33年3月	昭和35年
⑤	『県立長崎図書館郷土資料目録』上	昭和39年3月31日現在	昭和39年
⑥	『県立長崎図書館郷土資料目録』下	昭和40年3月31日現在	昭和41年
⑦	『県立長崎図書館郷土資料目録』 増加補遺の部（1）	昭和40年4月～同48年3月	昭和50年
⑧	『県立長崎図書館郷土資料目録』 増加補遺の部（2）	昭和48年4月～同58年3月	昭和59年

※戦前は「志料」の字が使われていました。

刊行した資料目録は以上です。それ以降に所蔵された郷土資料については、刊行はしていませんが、目録を作成し、郷土課閲覧室に備えています。

目 錄 名	対 象 年 月
⑨ 「主題別郷土史料（50音順）」1～6	平成3年3月まで
⑩ 「郷土資料図書目録（書名順）」1～8	平成3年3月まで
⑪ 「郷土資料図書目録（著者名順）」1～7	平成3年3月まで
⑫ 「郷土資料図書目録（分類順）」1～4	平成3年3月まで
⑬ 「各種文庫図書リスト（書名順）」1～6	平成3年3月まで
⑭ 「別置図書リスト（書名順）」1～2	平成3年3月まで
⑮ 「郷土資料図書目録（書名順）」1～7	平成3年4月～平成12年3月
⑯ 「受入図書リスト」	平成12・13・14・15年度

● 新聞記事索引 ●

新聞に書かれた郷土に関する記事も重要な郷土資料です。本館では、本館に所蔵する明治初期以降の地元紙を中心に一部全国紙に掲載された郷土に関する記事を検索できるようまとめています。なお、これら新聞記事索引は⑰を除いて、『日本十進分類法』で分類しています。

目 錄 名	対 象 年 月	発行年
⑰ 「原水爆関係新聞記事索引」	昭和20年8月～同45年12月	昭和46年
⑱ 「郷土関係新聞記事索引」	明治初期～昭和45年12月末	昭和47年
⑲ 「郷土関係新聞記事索引（分類順）」1～5	明治初期～昭和58年3月末	
⑳ 「郷土関係新聞記事索引（件名順）」1～4	明治初期～昭和58年3月末	
㉑ 「郷土関係新聞記事索引（記事名順）」1～4	明治初期～昭和58年3月末	
㉒ 「郷土関係新聞記事索引（著者名順）」	明治初期～昭和58年3月末	

● 郷土課からのお願いとお知らせ ●

1. お願い

郷土資料の中には、貴重資料、古写真、大型絵図、私的書簡等、閲覧を制限しているものがあります。できるだけ、複製、翻刻本での利用をお願いいたします。なお、上記原資料の閲覧をご希望の方は、事前に郷土課までご相談ください。（TEL 095-826-5258）



2. お知らせ

現在、平成17年秋開館をめざして長崎歴史文化博物館（県立長崎図書館横）が建設されています。博物館には、「長崎学」を中心とした郷土課の資料が移管される予定です。このため、平成17年には、資料移管作業のため郷土課の資料を閲覧できない期間が発生することが予想されます。平成17年4月以降に本館4階郷土課のご利用がある場合は、お手数ですが、事前に電話・メール等にてご確認の上、ご来館いただきますようお願いいたします。

※長崎図書館3階の一般図書および子ども室のご利用は、通常どおりです。

平成 16 年度第 1 回長崎県立長崎図書館協議会開催

去る 9 月 17 日(金)に、長崎市(セントヒル長崎)で平成 16 年度第 1 回長崎県立図書館協議会が開催されました。当協議会は館長が広く各界各方面の代表の方々から、図書館運営に関する助言を受けたり、意見を伺うことにより、よりよい図書館運営の参考とするための協議会です。委員の構成は、学校関係、社会教育関係、学識経験者、一般公募で選ばれた委員等 10 名で構成されています。

以下、当日の協議等の意見の中から一部をお知らせします。

市町村合併の影響について

委員意見：市町村合併の影響は図書館にどのように及んでいるか。

事務局回答：合併に伴い、これまでよりもかえってサービスの外に置かれる地域が生じてこないか、また複数の館が存在する市町では、中央館と地域の分館との格差が生じないか、などのことが懸念されることから、今後とも十分注視していきたい。

司書・司書教諭育成の研修について

委員意見：県立図書館、公立図書館、学校図書館の司書等の研修は、検索等をパソコン頼りにせず、利用者に対してきちんとサービスできるような職員の心構えみたいな研修が必要と考える。

事務局回答：人間関係を大切にする人材を育成するという観点からの司書・司書教諭等の研修に力を入れて実施していきたい。

歴史文化博物館への資料移転について

委員意見：今までの郷土課の分野の一部が平成 17 年秋に開館予定の長崎歴史文化博物館に移ることになっているが、博物館と図書館では資料に対する扱いが異なるということを念頭において対処していくことが大切である。

部門として、県立図書館にも郷土資料を扱う部門をしっかりと残した方がよいと思うし、市町村に対するモデルにもなると考える。

事務局回答：現段階でははっきりしたことは明示できないが、新博物館は長崎学の拠点として位置づけられている。それに伴って県立図書館所蔵資料のうち、主に長崎学関係資料を移管することとなる。

今後の検討を待たなければならないが、県立図書館に残る資料としては現在のところ、長崎学関係を除いた行政資料、郷土近代文学資料、教育関係資料等が中心になろうかと考えている。

時事トピックス

県議会で県立図書館について質疑

平成 16 年 9 月定例会及び 11 月定例会において、高見 健議員(9月)・吉川 豊議員(11月)の両議員から「長崎市の図書館建設後の県立図書館について」の質問がありました。両議員の質問と教育長の答弁のあらましは次のとおりです。

(県立長崎図書館の大村移転について) 高見 健 議員(改革 21)

質問要旨：長崎市の図書館建設後、県立図書館の機能を考慮すると地理的に県央地区が最適地ではないかと考えるが。

教育長回答：今後の県立長崎図書館の在り方については、現在、各市町村において、充実した図書館が整備されつつある状況なども踏まえ、今後、様々な角度からの検討が必要であると考えている。

(県立長崎図書館建替について) 吉川 豊 議員(自民)

質問要旨：県立図書館の今後のあり方及び新たな建設計画について。

教育長回答：今後の県立長崎図書館の在り方については、県立図書館としての機能の重要性や、各市町村において充実した図書館が整備されつつある状況等も踏まえ、今後広く県民の方々の意見等も伺いながら、様々な角度からの検討が必要であると考えている。

障害者ふれあいブックメールサービスを御利用ください

県立長崎図書館では、県内在住の方で、何らかの障害を持つため図書館などを利用することのできない方々へ、無料で図書の郵送貸出サービスを行っています。

・対象者

県内在住の身体障害者手帳をお持ちの方で、その障害の程度が下記に該当される方。

両下肢、体幹、移動機能の障害	1～2級
心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害	1～3級

・利用について

22日間、50冊まで借りることができます。送料は県立長崎図書館が往復負担します。



・申し込み方法

県立長崎図書館 奉仕課までお問い合わせください。

登録申込書を送付しますので、必要事項を記入し、添付書類を同封の上、県立長崎図書館あてに郵送でお申し込みください。

・問い合わせ先

長崎県立長崎図書館 TEL 095(826)5257
FAX 095(826)9285

「長崎ゆかりの著名人による子どもにすすめるこの一冊」

現在、本館では、芸術・文化、スポーツ、経済など様々な分野で活躍されている長崎県にゆかりの深い著名人50名の方から「長崎の子どもたちにぜひ読んでほしい」とご推薦いただいた図書を「長崎ゆかりの著名人による子どもにすすめるこの一冊」から寄贈いただき、展示しています。

★ 資料内容 長崎県にゆかりの深い著名人50名の方から「長崎の子どもたちにぜひ読んでほしい」とご推薦いただいた図書 50冊

★ 期間 平成17年3月30日(水)まで

★ 場所 本館2階オープンスペース

★ 展示用貸出し 希望する図書館等には、一定期間・展示用として本棚付きで一括貸出いたしますので、県立長崎図書館 総務課までお問い合わせください。



★ 休館のお知らせ ★

県立長崎図書館は、12月28日(火)から1月5日(水)まで、年末年始のため休館いたします。ご利用の皆様には期間中ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

新設オープン

市町村図書館紹介

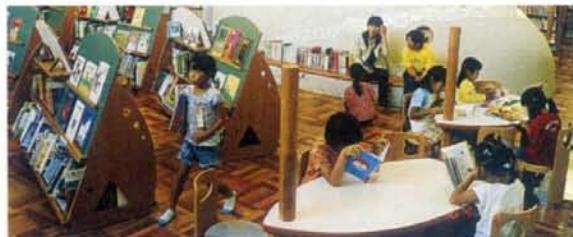
たらみ図書館

海からの贈り物

町民待望の「たらみ図書館」が、波静かな大村湾に面した自然環境豊かな場所に11月3日オープンいたしました。「たらみ図書館」は図書館法による町立図書館として建設されましたが、集会、展示機能も併せ持つ複合型図書館です。「海からの贈り物」というコンセプトのもとに設計がなされたこの図書館は、海辺の図書館にふさわしい外観、内部は大村湾の魚介類をモチーフにした案内表示等があり、また家具を中心とした木製部分が多く楽しい、温かい雰囲気を醸し出し、利用者の方々に好評をいただいております。

今後、町民の知的文化センターとしての役割を果たしながら、多様な機能を備えた特色ある図書館づくりを進めたいと思います。

「たらみ図書館」の運営方針として、次の7項目を掲げています。



- (1) 町全域へのサービスに努めます。
- (2) 青少年への積極的な対応を行い、良質の溜まり場を創出します。
- (3) インターネットをはじめとした情報サービスの充実に努めます。
- (4) 生涯学習事業との連携を深めます。
- (5) 学校への支援を充実させます。
- (6) 子育て支援へ参画します。
- (7) ふるさと意識の熟成に寄与できるような事業推進に努めます。

以上のことを行なう柱にしながら、積極的な事業展開を図って参ります。

図書館は町民の誰もが学び、楽しみ、くつろぐことのできる場所であると思います。乳幼児から高齢者の方まで多くの町民の皆様が「学びの場所」として、「居場所」として気軽に利用できる環境づくりを進め、開かれた図書館を目指します。
(文責 館長 松永碩哉さん)



国見町図書館

自慢のひとつはお話コーナー

ふと、ガラス越しに見る風景にも初冬を感じるころとなりました。そして、1年前の今ごろを思い出します。私は平成16年5月30日の開館に向け、昨年から図書館準備事務員として勤務し、開館の準備を日々整えておりました。そして、「国見町に図書館を！」の熱い思いが実り、町民が待ちに待った開館を迎えることが出来ました。

国見町図書館は国見町文化会館（まほろば）と併設しており、雲仙普賢岳を一望できるガラス張りの開放感あふれる図書館で、親しみやすい憩いの場となっています。

館内には、蔵書検索の出来るタッチパネルが設置されており、子どもたちも楽しみながら検索をしています。住民の絵画を展示したり、図書ボランティアの協力を得ながら季節感あふれるレイアウトを行っています。フロアで、布製のたっぷりおおきなソファーに身をしづめて読書している様は、まさに癒しの空間といえる

でしょう。自慢の1つを紹介しますと、それは図書館の一角にあるお話コーナーで、小さな子どもに読みきかせをしている若いおかあさんやおばあちゃん、又、ある時はお父さんの姿もよく見かけます。ゆったりとした時の中で、窓いっぱいにふりそそぐ陽射しのような、温かい風景がそこにはあります。

人には人生の節目に出会う本、忘れることが出来ない本、貴重な本があると言われています。そのような貴重な本との出会いを作れるような図書館にしていき、その担い手となれるよう、これからも努力していきたいと思います。

(文責 司書 藤澤智洋さん)

